

# スクールソーシャルワーク論

専門教育科目 / 2 単位 / T 授業

担当教員 日田 剛

## ■使用テキスト

山野則子、野田正人、半羽利美佳著  
「よくわかるスクールソーシャルワーク」第2版 ミネルヴァ書房

## ◆参考テキスト

門田光司／奥村賢一監修、福岡県スクールソーシャルワーカー協会編  
「スクールソーシャルワーカー実践事例集」中央法規

## 講義概要・一般目標

ソーシャルワークの基本的理解を進めた上で、学校を実践現場とするスクールソーシャルワークを学ぶ (DP7)。教育現場である学校の組織論、指導論、運営論から学校文化について理解する。さらに学校現場でソーシャルワークが求められている背景を知り、スクールソーシャルワークの歴史 (世界的な動向とわが国の取り組み)、役割について具体的に理解する (DP7)。

## 到達目標

- 1) ソーシャルワークの方法、機能、価値について説明できる。
- 2) 学校の組織構造を図示して表すことができる。
- 3) 学校運営について説明できる。
- 4) 学校でソーシャルワークが求められる要因についてあげることができる。
- 5) スクールソーシャルワークの歴史を整理することができる。
- 6) スクールソーシャルワークの理論、方法について理解できる。

## 評価方法

科目単位認定試験により評価。

# 学習指導

## I なぜスクールソーシャルワークが必要なのか

### この章のポイント

子どもを取り巻く環境、主に学校に視点を当て多様な問題について理解する。その上でスクールソーシャルワークが必要となった背景を学ぶ。

## II スクールソーシャルワークとは

### この章のポイント

スクールソーシャルワークの価値、目的、意義について学ぶ。

## III スクールソーシャルワークの歴史と動向

### この章のポイント

各国のスクールソーシャルワークの取り組み、歴史を確認して、日本におけるスクールソーシャルワークの歴史を理解する。

## IV 学校教育の特徴

### この章のポイント

スクールソーシャルワーカーの実践現場となる学校について、その特徴を理解する。特に学校教育独自の文化や仕組み、組織のあり方などを掘り下げて理解する。

## V 教育（学校）が連携する機関とその機能

### この章のポイント

学校が連携する機関について、その機能を理解する。機関としてはフォーマル、インフォーマルと幅広く含まれることを理解して、スクールソーシャルワーカーがどのような役割を担うべきかを学ぶ。

## VI スクールソーシャルワークの基礎理論

### この章のポイント

ソーシャルワークのさまざまな理論を確認して、スクールソーシャルワークにどのように生かされるのかを理解する。